

2024年度 茨城キリスト教学園中学校 自己評価表

目指す 学校像	本校は建学の理念であるキリスト教精神に基づいて、豊かな人間性を育むことを目指しています。 本校の教育目標は「心豊かで実力のある自立した国際人の育成」にあります。 (1) 自己の確立・・・神を敬い、自分を大切に、良い目的を持つ人生を志し、勉強に励む生徒を育てる。 (2) 人類愛・社会性の育成・・・自分と同じように家族・友だちを大切に、さらに国際人として世界の人々を愛せる生徒を育てる。 (3) 個性の伸長と進路実現・・・自分の能力・個性を伸ばし、進路実現のために意欲的に取り組める生徒を育てる。
------------	---

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標
三つの重点項目を中心に、生徒・保護者・教職員の共通理解の下で種々の教育活動を実践しつつ一定の成果を年々積み重ねてきたが、なお一層ひとりひとりの生徒を大事にしたきめ細かな計画・実施・点検が必要である。	キリスト教教育に基づく豊かな人間教育	①礼拝、宗教行事等の活動を通して、豊かな人間性と情操の陶冶を図る。 ②宗教行事に積極的に取り組む姿勢を養うとともに、礼拝を通して敬虔な態度を身につけさせる。 ③豊かな情操と福祉の心を育てるための方策を具体的に推進する。
	国際教育と英語教育の強化	①国際教育を積極的に展開し、国際理解を深めると共に、その基盤でもある英語教育の強化と実践に努める。 ②生徒の発達段階や実態に即した指導計画を作成し、教育活動全体を通して、国際教育を進める。 ③留学や研修などの国際交流教育を具体的に進め、異文化体験を通して豊かな国際性を養う。 ④外国人教師による英会話教育の充実と強化に努める。
	学力の向上と進路指導の充実	①基礎的・基本的な事項を確実に身につけさせると共に、自主的学習の態度を養い、創造的な力を高め、進路実現のための実力を養う。 ②各教科で指導内容、指導計画の見直しを行い、一層の応用力の発展を図る。 ③学習指導法の工夫、改善を図り、個人差に応じた指導を進める。

＜判定基準＞ 5：大変よくできた 4：よくできた 3：ふつう 2：やや不十分 1：不十分

項 評 目 価	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度への課題
第1学年	1. 基本的生活習慣を身につける。 2. 思いやりを持ち、お互いを尊重しあう人間関係を構築する。 3. 意欲的に学習に取り組む。	①状況に応じた挨拶・言葉遣い・しぐさができるようにする。時間や公共マナーを守り、けじめをつけた行動をできるようにする。日々の整理整頓を心がけ、自己管理ができるようにする。	4	4	・生徒間のコミュニケーションでトラブルが起きないよう、普段の行動、言動に対して細かく指導していく。 ・学習習慣を確立し、中高一貫校の学習に耐えうる基礎学力を育成する。
		②それぞれの個性を認め、思いやりを持って接する態度を養う。自分の言葉や行動に責任を持ち、相手を許す気持ちを持って周囲に接することができるようにする。	4		
		③教員の話をよく聞き、積極的に発言し授業に取り組めるようにする。家庭学習時間（最低2時間）を確保し、基本的学習習慣を確立する。学習の土台〔課題を確実に行う・提出物の期限を守る・小テストに真剣に臨む〕を築く。	4		
第2学年	1. 意欲的に学習に取り組む。 2. 基本的生活習慣を身につける。 3. 思いやりを持ち、お互いを尊重しあう人間関係を構築する。	①授業に真剣に取り組む、クラスメイトと学び合う関係を築く。一日平均2時間の家庭学習を確保する。課題を確実にこなし、小テストは満点合格を目標に学習する。	4	4	・意欲的に学習に取り組む ・基本的生活習慣の確立 ・思いやりを持ち、お互いを尊重しあう人間関係を構築
		②状況に応じた挨拶・言葉遣い・しぐさができる。時間や公共マナーを守り、けじめをつけた行動をする。日々の整理整頓を心がけ、自己管理ができる。	4		
		③それぞれの個性と認め、思いやりの気持ちを持って人と接する。自分の言葉や行動に責任を持ち、相手を許す気持ちを持って周囲に接する。	4		

第3学年	1. 基本的な生活習慣を確立させる。 2. 相互に尊重し合える友人関係を構築させる。 3. 学力の育成と伸長を図らせる。	①元気に挨拶し相手や場面に応じて適切な言葉遣いができるようにさせる。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用する態度を養う。さまざまな面での自己管理ができるようにさせる。	4	4	・学力の更なる伸長。特に、難関大学を狙える最上位層の育成。
		②ひとり一人の個性を理解し、価値観の違いを認め合うようにさせる。常に他者への思いやりと感謝の心を持ち、それを態度や言葉で表現できるようにさせる。相手を受け入れる広い心を養わせる。	4		
		③予習・授業・復習のサイクルを身につけ、授業に集中して取り組む態度を育む。課題は必ず成し遂げ、毎日2～3時間以上の家庭学習を目指す。	4		
		④教科書や授業だけでは得られない様々な教養を涵養する。新聞やニュースなど、世の中のさまざまな情報に目を向け、問題意識を持たせる。	4		
宗教	年間テーマの「命を尊ぶ」を指針とした活動を通して、互いに認め合い、他者のために心を働かせ、行動し、他者と共に喜び生きていくことができることを目指す。	①放送礼拝の充実：生徒たちが静まって自分を見つめる時間を大切にする。	4	5	・朝の礼拝は、中学生にもわかりやすい内容を工夫していく。 ・パネル展は、中学生にとってもわかりやすい取組であった。今後も年間テーマに沿った内容で企画検討していく。 ・クリスマス礼拝は、ページェントを中心に充実化させていく。
		②集合礼拝の充実：礼拝の時間として、その意義を理解してもらえるように務める。学園チャプレン、近隣牧師、大学職員の方など、様々な方からみ言葉を聞く機会を持つ。	5		
		③キリスト教週間の充実：今年度のテーマ「命を尊ぶ」について学ぶ。	5		
		④クリスマス礼拝の充実：本校の意義ある学校行事としてキリスト教的意義を学ぶ。全校生徒が役割を分担し積極的に参加できるように図る。	4		
教務	1. 学校における教育活動全般を統括するために、各学年・分掌等と連絡を密に取り、迅速な調整を行う。 2. 学校全般の教育活動が潤滑に進められるように、教務関連業務の効率化と省力化を進める	①教育活動全般が円滑に進むように、各学年・分掌と連絡を密に取り、必要に応じて迅速な調整を行う。	5	5	・i-Pad使用について、ハード、ソフト両面の管理・ルール等の改善を行う。 ・配付資料のペーパーレス化を進めつつも、必要に応じて紙での配付も検討する。
		②情報システム部と連携して出席管理・成績処理・帳簿への記入などの電子化を進め、教務関連業務の効率化と省力化を図る。特に、新教務システム（中高プロⅡ）の不具合（通知表・指導要録等）の改善を図る。	5		
		③中学校教職員のi-Pad導入6年目に伴い、配付資料等のペーパーレス化をさらに促進すると同時に、配信データの管理・保存方法・ルール化について検討・提示する。	4		
		④生徒用i-Pad導入4年目ということで、関係分掌と連携して安全で効果的な使用方法について最新の情報を提示する。	5		
		⑤年間行事計画を基にして、月毎の詳細な計画を立案する。	5		
		⑥時間割調整は勿論、授業時間数の確保に努め、十分な学習活動が展開できるように努める。	5		
		⑦保健美化部と連携して教育活動に関連する環境整備に努めると共に、教員が教育に励める庶務内容をより充実させる。	5		

進路指導	各学習段階に応じた進路指導の計画を立て、実施する。	①キャリア教育を発展していけるよう検討する。	4	4	・全学年で探究活動に触れる機会を企画することができた。次年度も継続していく。 ・キャリア教育として、職場体験も検討していく。
		②各学年とも「三者面談」を計画し、実施する。	5		
		③「全学年 進路ガイダンス」（一貫卒業生から学ぼう）を計画し、実施する。	5		
		④探究活動を実施できるように検討していく。	4		
学習指導	各学習段階に応じた学習指導の計画を立て、実施し、学習習慣の確立と学力の定着を図る。	①「家庭学習の記録」を全学年で実施し、学習習慣の確立を図る。Classiで収集した情報を生徒面接・保護者面談の資料としても活用できるようにする。	3	4	・学習の記録・プロジェクトシートの在り方をさらに検討していく。 ・長期休業中講習で新たな取り組みを実施できたことはとてもよかった。次年度以降もさらによいものになるよう検討を続けていく。
		②学力向上を図るため、各種ゼミを実施する。	4		
		③中学校課程学力確認試験を実施する。また、学力不振者に特別補習を行う。	5		
		④実力試験を計画し、実施する。	5		
		⑤学力推移調査を計画し、実施する。	5		
		⑥「3年 一貫高2生から学ぼう」を計画し、実施する。	5		
生徒指導	1. ひとりひとりの自主性・自立性を育て、中学校生活の充実と人格の育成に努める。 2. 本校教育理念の実現にむけて払われる全教職員の取り組みに協力し、その効果的達成のため、側面から援助する。 3. 指導内容の共通理解をし、共通行動をとれるようにする。	①挨拶・正しい言葉遣い・時間厳守など、礼儀と基本的な生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。	4	4	・挨拶、正しい言葉遣い、時間厳守などの礼儀や基本的な生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。 ・iPad, スマートフォンの使い方を研修し続ける。
		②生徒心得に基づいた中学生らしい端正な容姿を守らせる。	4		
		③学年・学級担任と連携することにより、生徒の問題行動等に対し、事前・事後にわたって効果的に対処する。	4		
		④いじめ防止に努めるとともに、いじめの早期発見、早期対応により早期解決を図る。	4		
		⑤インターネットや携帯電話を使用した事故・事件に対する防止および解決に努める。	4		
特別活動	1. 行事、委員会活動の充実を図る。 2. 生徒が自主的に活動できる環境作りをする。 3. 信愛会役員がより積極的に活動できるように指導、支援する。	①行事や諸活動において、学級や委員会で目標・計画をたて、それに従って活動できる体制を整える。	4	4	・各行事の目標、目当てを確立し、生徒と教員へ周知する。 ・行事を円滑に進行させるために、委員会、信愛会、教員が具体的に行動できるように取り計らう。
		②信愛会役員の自主性を育て、自主的かつ主体的な活動ができるよう支援する。	4		

国際教育	生徒が自分自身の進路を考えていくに当たり、自国の文化や異文化についての関心・理解を深め、視野を広げていけるよう指導する。	①短期留学生の受け入れについて i. 国際教育部を中心に、他の教員の協力を得ながら特別授業や諸行事を行う。 ii. 受け入れに際しての説明会を丁寧に実施し、高等学校とも連携しながらホームステイ制度の充実を図る。	4	4	・多文化共生社会を見据えて、外国にルーツのある子どもたちの受入に必要な下地作りに取り組む（ピアサポーターの育成や、教員への周知など） ・シンガポールのプログラムの実施評価を分析し、中高連携も含め、更なる発展に向けて継続して検討していきたい。
		②短期留学生の派遣について i. 派遣生徒を精選し、留学プログラムを一層充実させる。 ii. 派遣生への事前指導と準備、事後指導を（高等学校と協力しながら）十分に行う。 iii. 十分な指導と準備をするために早目に引率者を決定する。 iv. 引率の手引を作り、引率者の負担を減らすよう努める。 V. 新規のシンガポールでの探究型研修QUEST Program in Singaporeを滞りなく実施する。	4		
		③6年間の国際理解教育という時間的条件を考慮しつつ、自国の文化や異文化についての理解を深める機会の提供を、高等学校や大学などとも積極的に協力しながら行う。	3		
教育相談	1. 教育相談の立場から、明るく安心して登校できる学校・学年・クラスの雰囲気づくりのサポートを組織的にし、良好な人間関係を築けるよう働きかける。 2. 悩みや問題を持つ生徒が、学校生活に適應できるよう、組織的に援助する。 3. 生徒の成長を援助できるように、教育相談に関する知識・技術の習得に努める。	①生徒が安心して学校生活をスタートできるよう、新入生に対し、教育相談オリエンテーションで本校の相談体制を身近に感じられるようにし、構成的グループエンカウンターで仲間づくりのアシストをする。また、その後のフォローアップ活動を行う。	5	4	・ICタイムの充実 ・ワイド相談の在り方を検討 ・個別の研修について検討
		②中学校ワイド相談（エゴグラム）を実施し、生徒に自己理解を深める機会を提供する。	4		
		③個々人の特性を知る、悩みの早期発見、日常の生徒観察の一助として、知能検査、心理検査、Q-Uアンケートを実施する。また、結果到着後に、要配慮者の確認を行う。加えて、いじめ対策としての学びの場の提供を行う。	4		
		④教育相談部だよりを発行し、安心して生活できる場を作り上げる方法や、メンタルヘルスケア方法を紹介することで、生徒自らの心のケア能力の向上を図る。	5		
		⑤スクールカウンセラー、養護教諭との連携を密にして情報の共有化を図り、問題を早期に発見し、適切に対応する。また、状況に応じて、特別支援会議や関係教職員対応会議を実施する。	5		
		⑥教育相談に関する研修に参加し、動向や対応について学ぶ。	4		
保健美化	1. 美化：校内の環境整備、校舎内外の清掃・美化を徹底して行う。 2. 保健：心身ともに、健康な生徒を育成する。教室の換気等、健康に生活するための環境を整える。	①衛生消耗品や清掃用備品などの点検補充を行う。	5	5	・廊下・階段などの黒ずみを作らない、放置しないよう各自が注意できるようにする。 ・教室の換気等、生徒自らが行動していけるようにする。
		②通常清掃、大掃除時の計画や清掃方法を周知し、美化活動の効率化を図る。	4		
		③身体計測や諸検診などを効率的に実施する。	5		
		④校内の環境衛生について、教室の換気等、生徒全体で円滑に行えるよう指導する。	4		

図書館	1. 生徒や教職員が足繁く訪れる、魅力ある図書館 2. 利用しやすい学習・情報センター 3. 各教科・分掌との連携による充実した図書館活動	①蔵書構成の適正化を図り、生徒の学習・読書活動に資する蔵書の充実に努める。	5		・ 図書館利用教育の推進 ・ 進路実現に向けた、蔵書構成の適正化 ・ 図書委員会活動の一部再開 ・ 電子図書館の復活再検討 ・ 読書講演会等の中高大連携の推進
		②諸行事・諸展示企画の充実に努め、生徒の読書に対する興味と意欲を喚起する。	5		
		③図書館からの諸案内により図書館情報の普及に努め、図書館への関心を高める。	5		
		④ブックリストの活用等により教科・分掌と協力して図書館利用を促す。	4		
		⑤図書委員会活動の活性化を通して生徒の図書館利用を推進する。	4		
渉外	1. 肩羊会会員の活動の場としての体制を整備する。 2. 肩羊会の活動を通して、生徒の学校生活の充実を図る。 3. 保護者の研修・情報交換の場としての充実を図る。 4. 諸活動の効率化をはかり、より楽しく活動できるように工夫する。	①本部役員を中心として諸活動を充実させる。	5	5	・ 今年度同様、肩羊会会員と教員との連携を図り、生徒の学校生活をサポートする。
		②学年委員会は、学年肩羊会活動の企画運営にあたる。	5		
		③総務委員会は、肩羊会総会の際に受付や進行を行う。	5		
		④研修委員会は、教育講演会の企画立案を行う。	5		
		⑤環境整備委員会は、校舎周辺の花壇・プランターの整備を行う。	5		
		⑦校外指導委員会は、登下校の指導・駅前指導を行う。	5		
		⑧広報委員会は、年2回の広報誌の作成を行う。	5		
情報システム	1. HPの充実 2. 授業でのICT活用の推進	①HPでの学校行事等の更新の迅速化	5	4	・ HPの内容のさらに充実させる。 ・ ICTを活用した授業例を他の教員と共有する機会を持つ。 ・ ICTにより業務の効率化を図る。
		②HP上で提供する情報の拡充	4		
		③ICTを活用した授業のサポート	4		
		④情報教室PC、個人への貸与iPadの適切な管理	5		

入 試 広 報	本校の教育内容を受験生とその保護者、小学校や塾関係者に正確に伝わる広報活動を行い、男女問わず多数の志願者を得て、入学者が増えるように努める。	①PR効果のある学校案内パンフレット・ポスター・ちらしを作成し、活動域内のすべての受験生に届けられるように努力する。	5	4	・急速な少子化が進行する中で、志願者・入学者を確保するためには、学校への評価・信頼が安定する必要がある。そのためにも、継続して周囲との信頼関係構築に努力する。 ・県立中高一貫校の増加に伴い、「私学」のよさを、今まで以上に発信する。
		②校外で行われる入試説明会や進学フェアに参加する。	5		
		③学校見学会・入試説明会等や学園祭の内容を充実させ、多くの児童とその保護者に参加してもらえるようにする。	4		
		④関連部署と協力し、中高入試広報部が一体となり、学外広報に努める。	4		
		⑤生徒募集に関わることについて、教職員全員が共通認識を持てるように学内広報に努める。	4		
国 語	1. 自分の思考や感情を、「ことば」を使って効果的に「話す」「書く」能力を養う。 2. 相手が伝えようとしていることを、その意図を理解しながら正確に「聞く」「読む」能力を養う。 3. 漢字を正しく理解し的確に使えるようにするとともに、語感を磨き語彙を豊かにさせる。	①音読、正確な読解、自分の意見のまとめと発表、詩歌等の創作、作文（作品に対する意見文や感想文）等の観点から日常の授業内容を工夫し、充実させる。	4	4	・自分の書いた文章や意見を伝え合う時間を充実させていく。 ・「シオンの100冊ジュニア」の改定作業を行う。
		②「読書記録」を年間2回、夏休みには読書感想文に取り組ませる。	5		
		③様々な名文に触れ、音読を通してそのリズムや響きに親しませる。	4		
		④字力向上のため、漢字テストを実施する。また、その成果を見るため、「漢字能力検定試験」を計画し、実施する。	5		
		⑤国語辞典・漢和辞典・古語辞典を授業の中で積極的に活用し、語彙を増やすよう努める。	4		
		⑥「国語弁論大会」を計画し、実施する。	5		
社 会	1. 地理的分野では、深く社会を立体的に捉えることを目標とし、資料活用や調査研究のための基礎的な力を養う。 2. 歴史的分野では、広い世界史の枠組みと流れの中で、日本の歴史を捉える力を養う。 3. 公民的分野では、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、公正な判断力を養い、良識ある市民として必要な能力と態度を育てる。	①生徒の実情を踏まえつつ一貫校の特長を生かした授業を展開する。特に中3生には、授業内外において、中学校課程学力確認試験対策を行う。	5	4	・基礎基本の更なる徹底 ・地理の副教材の廃版に伴う教材再選定
		②ICT教材やアクティヴ＝ラーニングの指導法を共有し、より良い授業のあり方を研究する。	3		
		③小テストを小まめに行い、基礎基本の定着を徹底する。	4		
		④長期休業を活用した課題学習の充実を図り、深い学びをさせる。	4		

数 学	前倒し授業を通し、1・2年次では計算力、論理的思考を養い、3年次で数学的思考力、記述力を身につけさせる。	①＜1年次＞数学において必要な基本的な計算力を確実に身につけさせる。 ＜2年次＞習熟度別クラスを実施し、計算力に加え、論理的思考能力を身につけさせる。 ＜3年次＞コースに合わせた進度・内容をより考えて、数学的思考能力、記述力を身につけさせる。	4	4	・主体的に取り組む習慣を身につけさせる ・計算力の向上 ・論理的思考能力を高める ・大学入入学共通テストについての研修
		②種々のテストについては、基準点に満たないものは、放課後に追試を実施する。追試は強制力を持ち、これに応じない場合は、担任注意、家庭連絡等を行う。	4		
		③授業やテストに合わせ課題を提出させる。未提出者は放課後残して終わらせる。	4		
		④電子黒板の利用・アクティブラーニングを研究していく。	5		
		⑤成績不振者には、必要に応じて指名講習を行う。成績上位者対象の希望者講習を行う。	4		
理 科	1. 第2学年次までは基礎学力の定着と向上に、第3学年次からは専門知識の習得に重点を置く。 2. 科学的な時事問題や発展的内容を授業に取り入れ、幅広い科学的思考を養う。 3. 観察・実験を通して理解を深めながら実験技能を習得すると同時に、自然を探究する能力と態度を育成する。	①基礎学力の定着を図るために、ICT機器の積極的な活用と小テストの適宜実施に努め、適切な課題学習も行わせる。	4	4	・ICT機器の効果的な活用と手法等の情報共有 ・実験用備品の適切な更新
		②演示実験や五感に訴える教材などを工夫し、これを授業に有効活用する。また、それらを教員間で共有することで、相互研修とする。	4		
		③6年間の理科教育を見越し、履修内容に応じて高校の学習範囲を盛り込んだ授業展開を工夫する。	5		
		④教員間の情報交換を定期的に行い、適切な指導に努める。	4		
音 楽	1. 我が国や外国の音楽を学ぶことによって音楽を愛好する心情を育むと共に、豊かな感性を育む。 2. 讃美歌やコーラスコンクールの練習を通して、音感・リズム感など音楽活動の基礎的な能力を育み、皆で美しいハーモニーを生み出そうとする協力性を養う。	①歌唱や器楽の練習を通して、音楽表現の基本となる音感やリズム感など音楽の基礎的な能力と音楽性を育むよう努める。	4	4	・歌唱指導や選曲の工夫に、より一層努める。
		②伝統の讃美歌を混声三部合唱で歌えるよう練習し、礼拝や入学式、卒業式、コーラスコンクール、クリスマス礼拝などで美しいハーモニーを響かせられるよう努める。	5		
		③質の高い演奏の収集に努め、鑑賞の授業の充実を図る。	4		
美 術	1. 学園祭に作品を出品することで、作品制作におけるプロセスである発想・制作・展示・鑑賞の流れを理解させる。 2. 絵の具・カッターなど、使用する道具の基本的な扱い方を習得させる。	①授業ごとの到達目標を明確にし、制作を進めさせる。	4	4	作業内容と到達目標を理解し、積極的に取り組めるよう、一人一人への声掛けを工夫する。
		②机間巡視で絵の具や道具の使い方などを細かく指導し理解させる。	4		
		③学園祭での美術作品展示を充実させる。	4		

技術 家庭	生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。	技術分野（１・２年） ①コンピューターに関する基礎的な知識と活用する技術を身に付けさせ、また情報と生活とのかかわりや情報モラルを学ばせ、情報手段を主体的に活用する能力を育成する。	3	4	技術分野 授業内容の理解と定着をより深めさせる。 家庭分野 学んだ内容を生活に生かすことができるように工夫する。
		②エネルギー変換の授業を通じ、生活と技術のかかわりや環境問題に目をむけさせる。	4		
		③身の回りのものつくりと栽培の技術を知り、正しい道具の使い方を身につけさせる。	4		
		家庭分野（全学年） ①自立と共生を目指し、衣食住、消費生活と環境などについての知識や技能を身に付ける。	4		
		②持続可能な社会を築くための一員として自分のできることを増やす意欲を持たせる。	3		
保健 体育	1. 運動における競争の経験を通して、公正な態度や、規則を守り、協力して責任を果たすなどの態度を育てる。 2. 健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。 3. 集団での基本のあり方を理解し、他者を思いやり行動ができるようにする。 4. 安全に集団行動がとれるようにする。	①集団行動を取り入れ、メリハリをつけた行動や姿勢がとれるようにする。	5	4	・基礎体力の向上 ・ICTを活用して客観的な動きの確認をし、技能を高める。
		②見学者・欠席者数の減少のため、状態把握に努める。	4		
		③体育授業の際の服装を徹底する。	5		
		④基礎体力強化のための運動を積極的に取り入れる。	5		
		⑤事故防止に努め、安全に授業に取り組める環境作りをする。	5		
		⑥生徒達の自主性を育てる。	4		
		⑦自己の能力に適した課題をもって運動を行い、その技能を高めて競技し、また記録を高めることができるようにする。	5		
英語	1. 英語を聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり・発表）、書くこと、の技能を身に着けさせる。 2. 様々な文化に対する理解と知識を深める。	①英語のアウトプットを増やすため、生徒の主体的な活動を授業・家庭学習で取り入れる。	4	4	・家庭学習でのアウトプットの拡大 ・理解させるとともに、上記と絡むが、実践まで至らせる方法 ・より計画的な受験を考えさせる方法
		②文法・語法を、将来正しく英語を使用できることを見据えて、指導する。	4		
		③English Workshopや留学生との交流活動など、英語を通して様々な文化を学ぶ機会を取り入れる。	5		
		④実用英語技能検定を積極的に受験させる。 2年次 SAクラス 英検3級合格・準2級挑戦 Aクラス英検4級合格・3級挑戦 3年次 SAクラス 英検準2級合格・2級挑戦 Aクラス英検3級合格・準2級挑戦	4		

英 会 話	生徒たちの基本的なコミュニケーション能力を育てる。生徒同士・職員との「思いやりのあるやりとり」ができるようにする。「感情を表す表現」を学び、自分の感情を伝えられるようにする。発表する力を育てる。	①情報のやり取り、感情を分かち合うアクティビティを行う	4	4	・より自分の言いたいことや感情を、場面に応じて表現できるように、語彙・表現を学ばせたい。
		②コミュニケーションのための表現や、社会的・感情的な表現を学び、即興でも使えるようにする	3		
		③ 教員の作成した教材も使い、発表する力を育てる	4		
聖 書	聖書の中の豊かな人間理解に触れながら、どんな人も神に愛され受け入れられている大切なかけがえのない存在なのだという事に気づいていくことによって、他者との共存へと導かれていくことを目指す。	①聖書を土台に、キリスト教の基礎知識を学ぶ。	5	5	・聖書の知識だけでなく、中学生が抱える発達課題等を踏まえて、授業を通して大切なことを考える機会となるような授業展開を今後も検討していく。
		②旧約聖書の基礎知識を手がかりに、人間について多様な視点で考える力を獲得する。	4		
		③福音書の学びを通して、自分や他者について多様な視点で考える力を獲得する。	5		
総 合	1. 自ら課題を見つけ、自から学び、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育てる。 2. 自らを深く見詰め、真理を探究し謙虚に自己の生き方を考えることが出来るようにする。	①教科学習や諸行事・部活動など、すべての教育活動を通して培っていく。	4	4	・ICT教育やタブレットとを上手く融合させ、デジタルとアナログの両面から、生徒の資質と能力を育む方策等を模索する。
		②総合学習の時間を通して、主体的に学習し、適応していく能力を育てる。	4		
		③礼拝を通して、人類や世界を視野においた価値観を養う。	5		